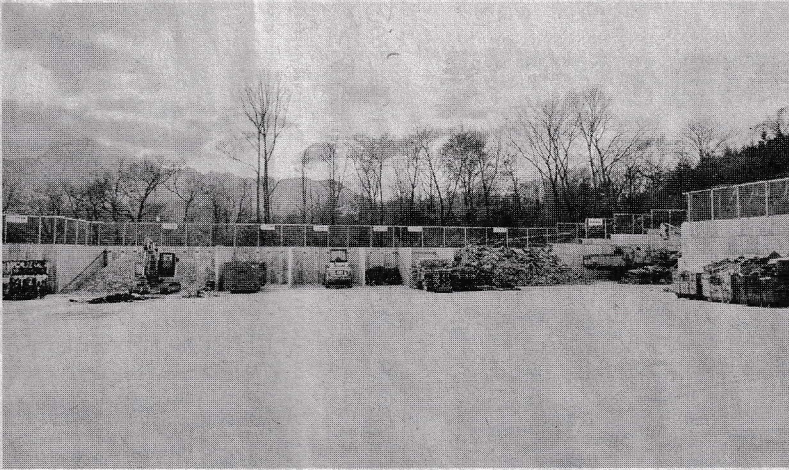
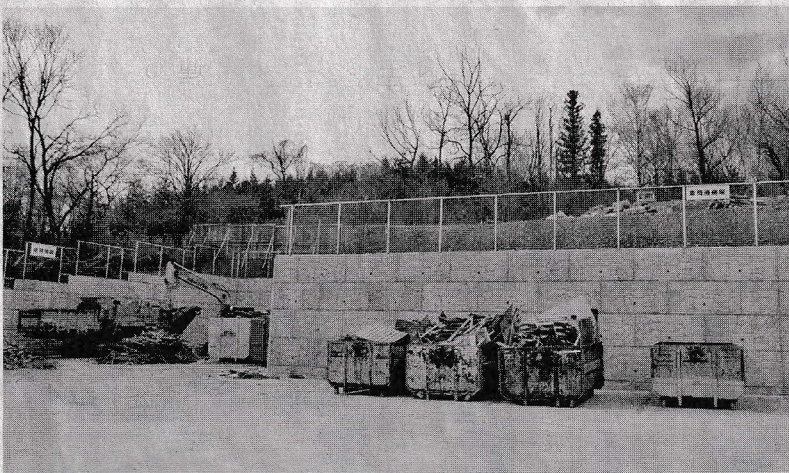


受入保管施設を大幅に拡張

ソリタ 粗選別のスペースも確保



品目ごとに保管スペースを確保



移設した破碎机(佐)

産業廃棄物の処理・処分・リサイクル事業を展開するソリタ(山梨市、反田成樹社長、☎0553・22・2928)は今年3月、中間処理施設第1工場(山梨県北杜市)付近の受入保管施設を大幅に拡張した。全体の保管容量は1856立方メートルで、粗選別(全選別)

を行うための専用スペースを確保している。受入保管施設(面積13775平方メートル)では▽水銀ドラム▽廃油▽繊維くず▽ガラスくず▽コンクリートくず(3カ所)▽金属くず(4カ所)▽紙くず(2カ所)▽廃プラスチック類(4カ所)▽木くず(産業廃棄物、4カ所)▽草・竹・木くず(一般廃棄物、1カ所)▽混合廃棄物(2カ所)の品目ごとに仕切りを設置して保管を行う。

また、従来から木くず(産業廃棄物)や草・竹・木くず(一般廃棄物)の処理に使用してきた移動式破碎机(処理能力140・8ト/日)を移設している。産業廃棄物処理施設変更許可と一般廃棄物処理施設設置許可は昨年10月に取得。水銀ドラム(水銀使用製品産業廃棄物)の取り扱いに関しましては、新たに積み替え保管の許可を追加した。

受入保管施設を拡大

したことで、中間処理施設内全体の作業効率も大幅に向上した。同じ品目の保管スペースを複数箇所に設置することで、廃棄物搬入時の粗選別も行いやすくなっている。

反田社長は「こういった時代だからこそ積極的に投資した。この期間を受入体制強化のための準備期間とした」と述べた。

従業員向けの休憩施設も内設した新事務所(今年8月完成予定)の建設を進め、労働環境の改善にも努めている。

反田社長は「こういった背景に着目して買った時代だからこそ積極的に投資した。この期間を受入体制強化のための準備期間とした」と述べた。

優健工業

余剰建材リサイクルで

リフォーム費用大きく削減

建築内装業、店舗・オフィスなどの内装工事を手掛ける優健工業(本社・東京・江戸川、金城健二社長、☎03・6808・2506)は、リフォームの際に発生している余剰リフォーム資材の廃棄に着目し、その資材を活用した格安リフォームサービス「財布と地球にやさしいアウトレツトリノベーション」を3月23日から開始した。

鹿島建設は、生分解性と耐候性を持つ、粉じん抑制材「MA Kフォーマー®・20」を開発した。

鹿島建設

生分解性、耐候性を

粉じん抑制材

鹿島建設は、生分解性と耐候性を持つ、粉じん抑制材「MA Kフォーマー®・20」を開発した。材料はこれまでに、粉じん抑制効果を確認し、期間持続性をめられてきた。

るセメントや杭を使用するだけでなく、小さい地球環境への負荷も少ない地盤改良技術となつ

材料はこれまでに、粉じん抑制効果を確認し、期間持続性をめられてきた。